

日本産倍足類及び唇足類の分類學的研究, II. オビヤスデ属の3新種

三 好 保 徳 (愛媛松山北高校) (1951 年 1 月 4 日受領)

オビヤスデ科 (Polydesmidae) の仲間, オビヤスデ属 (*Epanerchodus*) は東部アジアの特産属で, 現在 15 種 2 亜種が記載されている。そのうち日本産は 8 種 2 亜種で, この外に高桑良興博士により記載文が用意されていながらまだ公表されていない 15 新種がある。筆者はここでそれらのものとは全く異なる 3 新種を記載するのであるが今後もこの属のものにはかなり多くの未記載種が発見されるであろうことを豫想するに困難でない。このオビヤスデ属に近い属は *Polydesmus* で, この属には約 80 種, 60 亜種が知られているけれども日本産はない。はじめ *Epanerchodus* は Attems 博士により *Polydesmus* の亜属として日本産標品を基に記載せられた⁽¹⁾。その後同博士は亜属 *Epanerchodus* を *Polydesmus* から分離させて *Epanerchodus* 属を獨立させた⁽²⁾。そこに Attems 博士がとりあげている属徴は次のようである。

a) Die Samenrinne verläuft bis zur Samenblase im grossen und ganzen in der Richtung nach dem Ende des Gonopoden zu (Europa, Zentralasien) *Polydesmus* Latreille

b) Die Samenrinne verläuft erst endwärts, krümmt sich dann zurück und mündet in die Samenblase (Ostasien) *Epanerchodus* Attems

このように生殖肢の中を走る精管の様子が兩属の重要な標徴になつている。1931 年 Verhoeff 博士はこれに若干の追加をしている⁽³⁾。しかし今日ではこの *Epanerchodus* に最も近い生殖肢の構造をもつ属に *Usbekodesmus* (Samarkand 産) がいるので精管の様子のみで *Epanerchodus* を特徴づけるわけにはいかない⁽⁴⁾。何れにしても倍足類の分類では生殖肢の形態が重要な標徴とされ, 遂には雄がいなくては種の決定が不可能という有様になつているが, このような基礎の上に立つ分類學は倍足類にかぎらず甚だ安心出来ないようであるけれども, しかしまだ多足類では形態をもとにした分類學の仕事さえ全く終つてはいないし, 且つ今日の多足類の分類體系をうちたてた先覺者殊にかの Verhoeff 博士らの生涯と仕事をさぐつて見ると我々は容易にはこれをくつがえすことなど出来そうにない。しかし倍足類の生殖時期を知ることは分類上重要で近似の形態をもつていても生殖時期が全く異なるものがあることを見落してはならない。ひるがえつて所謂新分類學の斧が加えられるためにも 1 日も早く形態を基とした分類學の仕事が終ることをのぞむものである。この研究は文部省科學研究助成金による。

1. *Epanerchodus hamatus* n. sp. (カギオビヤスデ)

體長約 19mm, 體幅約 2.5mm 頭部及び體背面は汚褐色。腹面, 歩肢は黄色。頭頂に毛無き場合もあるが多くの頸板と共に粗毛あり。側庇は發達しその側縁はふくらみ臭孔なき側縁には 3, 臭孔ある側縁には 4 の微鋸齒あり。第 8 側庇の後角から後方へとがり, それより後方に至る程著しくなつていく。胸板は方形, 十字溝, 刺毛あり。生殖肢の基節は大形, その角状突起は正常。前腿節部に剛毛多く且つ腿節部の基には列をなして剛毛が生じている。Samenblase や Haarpolster は強力な腿節突起の下側にある。脛跗節は略 T 字形, 中央側面に棘あり, さらに先端に近くかぎ状の小棘あり, 自身の先端もかぎ状に曲る。産地: 白岩洞 (高知縣)。魚住政二氏採集 (1949・13・0)。

2. *Epanerchodus saragaminensis* n. sp. (サラオビヤスデ)

生時は汚れた赤褐色, 體長約 30mm, 體幅約 4mm 頭頂には短毛粗に生じ毛の基は顆粒状に少しふくらむ。頸板は楕圓形, 粗毛あり。側庇はよく發達し, その側縁はふくらみ 3 又は 4 の微鋸齒あり。側庇後角は第 10 あたりから角状に尖つていく。胸板は十字溝あり毛を生ず。後背板の各隆起は鮮明である。生殖肢: 腿節部大形で略矩形, 中央が少しめくくられたように細くなつていく。前腿節部は剛毛多く腿節突起は大形で鳥頭状。Haarpolster は小形であるが明らかな。脛跗節の中央部に先端がかぎ状の分枝あり。さらに先端に小枝あり。産地: 皿ヶ嶺 (愛媛縣) に饒産する。生殖期 6 月頃。

3. *Epanerchodus sanctus* n. sp. (ウスアカオビヤスデ)

體長 18—25mm, 體幅 2.5—3.5mm 生時淡赤, 赤褐。頭部, 體腹, 歩肢は黄白。頭部短毛多し。觸角棍

棒狀第 6 節最大。頸板半圓形隆起模樣不鮮明 若干の粗毛あり。側庇の側縁はややふくらみ, 3 又は 4 の微鋸齒あり。側庇後角は第 2—第 4 まで直角的。それより後方は後方に至る程著しく角狀に尖つている。後背板の隆起模樣は鮮明。生殖肢: 腿節部には鋸齒縁をもつふくらみがある。脛跗節は細長くその中央部がふくらんでいないで曲つている。副棘 (*n*) も曲つておりその先端に葉狀突起があり, 又は無し。腿節突起 (*f*) は 1—2 の齒狀突起あり又は無し。Postfemurabschnitt の突起 (*pf*) は發達しており又は發達していない。腿節部の前縁には皮膜狀の突起 (*fh*) が發達している。產地: 北宇和郡好藤村, 東宇和郡卯之町, 皿ヶ嶺 (以上愛媛縣) 生殖期 9—10 月。

文 献 1) Attems, '01, Mt. Mus. Hamburg, 18 102. 2) Attems, '14, Arch. Naturg., 80, A4, 157. —, '26, Handb. Zool., 4, 133. 3) Verhoeff, '31, Zool. Jahr., 61, B, Heft 4, 447, 4) Attems, '40, Das Tierreich, Polydesmoidea III, 146.

Résumé

Beitrage zur Kenntniss Japanischer Myriopoden.

II. Aufsatz: Ueber 3 neue Arten von *Epanerchodus* (Polydesmidae).

YASUNORI MIYOSI (Matuyama Kita Koto-Gakko)

1. *Epanerchodus hamatus* n. sp.

Körperlänge ca. 19 mm, Breite 2.5 mm. Kopf und Körper-rücken erdbraun, Beine und Bauch gelblich. Kopfschild und halbkreisförmiger Halsschild meistens dünn behaart. Seitenrand der Seitenflügel konvex, porenloser mit 3, poretragender mit 4 Kerbzähnen. Hintereck 2-5 rechtwinklig, weiterhin breit stumpfzackig, vom 8. an einen grossen Zahn bildend, dessen Grösse und Spitzigkeit caudalwärts allmählich zunimmt. Sternite quadratisch mit Kreuzeindruck, fein behaart.

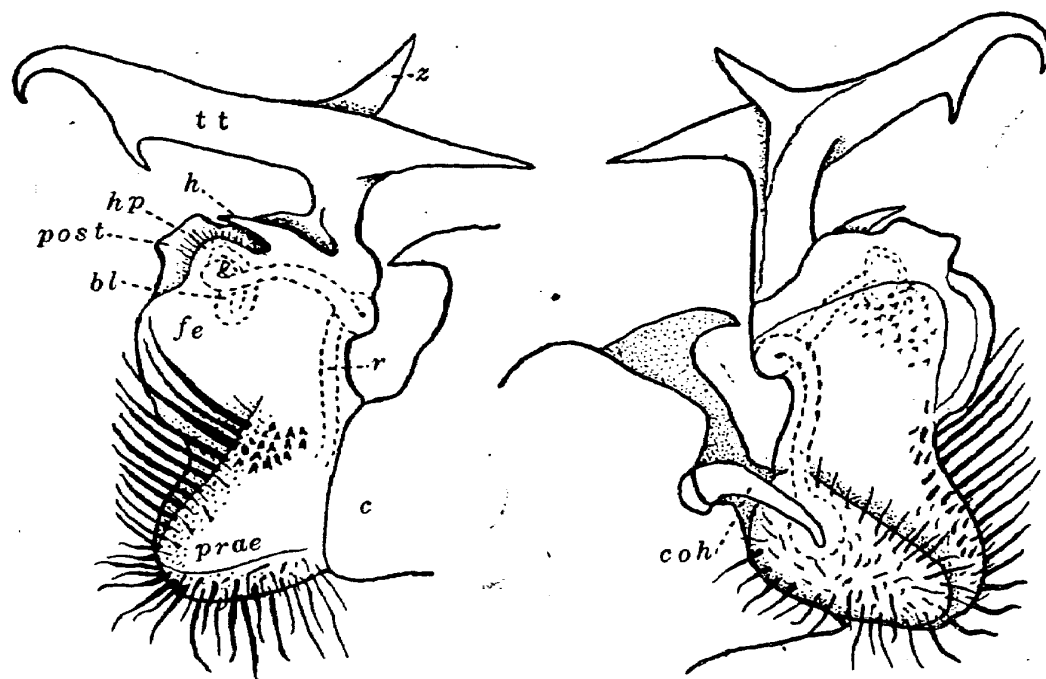


Fig. 1. Gonopoden des *Epanerchodus hamatus* n. sp.

Gonopoden: Hüfte (*c*) gross, Hünfthornchen (*coh*) normal. Präfemur (*prae*) beborstet. Basal-gegend der Femur (*fe*) besitzen eine Reihe von starken Borsten. Der Endteil der Samenrinne (*r*) und